



宮城県仙台二華高校生徒 「あいぽーと」施設見学

北上川の治水事業について講話



9月28(木)、宮城県から仙台二華高等学校の生徒ら98名が北上川流域の研修学習の一環として「あいぽーと」に来館しました。はじめに一関出張所 斎藤所長から北上川の治水事業について講話があり、その後、館内の流域航空写真で一関地区の過去の洪水等について説明を受けました。その他、集中管理センターや展望室を見学し、洪水対策や災害への備えなどを学習しました。

航空写真見学



集中管理センター見学



一関遊水地全景



実際の効果は？



昭和56年8月洪水



平成19年9月洪水

平成18年に周囲堤が概成し、平成19年9月洪水では浸水被害を防止しました。

遊水地事業を 知っていますか？

一関遊水地とは？

北上川の中流部・岩手県南部に位置する一関地区は、その地理的特性から古来より水害に悩まされてきました。

昭和22年(1947年・カスリン台風)、昭和23年(1948年・アイオン台風)に2年連続で来襲した大洪水では約600名の死者行方不明者を出す未曾有の大水害に見舞われ、戦後間もない一関地区は壊滅状態に陥ったのです。一関遊水地は、このような水害を契機に計画された北上川の治水の根幹をなす一大プロジェクトです。

遊水地は、市街地を洪水から守る周囲堤と、中小洪水を防御し、調節効果を増大させる小堤からなり、第1、第2、第3の3つの遊水地で構成されています。

一関遊水地は、水害の早期解消はもとより、人々の生活を支え、地域づくりを支援する事業として進められています。

◆◆編集後記◆◆秋の風を感じる季節になりました。岩手県北では紅葉が見頃な地域もあるようですが、一関市はまだまだ先のようにです。あと1ヶ月もすれば綺麗な紅葉が見られるので、待ち遠しいですね～☺ (ま)



胸に刻もう

『カスリン・アイオン台風70年』

～風化させない歴史とつなげる未来～